

公立刈田綜合病院への本市としての関わりに

ついで

沼倉啓介

〔質問〕構成市町が費用負担し事業運営をしている公立刈田綜合病院も存立基盤さえ維持することが困難さを呈している。

それらに関して当市の議員もフォローしようと懸命に関わりを持つべく努力している。当院の在り方次第では大きく本市に甚大な影響が予想さ

れ、庁内あげて今後の見通し等も含め積極的な取り組みが必要と思われる。

これらに対する構成市の首長としての考えを示して欲しい。

○その他の質問

4年間の総括と今後の展開について

家庭の教育力について

保科惣一郎

〔質問〕秋葉原の通り魔事件では死傷者17名の大惨事となった。凶行の理由からは地域や家庭、友人の絆が消え、孤立感しか見えない。

東京都の調査ですぐにキレてしまう青少年が6割以上になり、家庭の教育力の低下を感じている人は8割にのぼっている。

①市長は家庭教育力の現状をどう考えているのか。

②子どもたちは安心して家庭を求めている。

子どもと過ごす今を大切に、家庭を顧みる日「家庭の日」を創設してはどうか。

〔答弁〕【市長】医師不足と

なっている刈田病院については、本市が86・7%負担している状況から、重要な問題として認識している。議員の皆さんには「地域医療を守る議員の会」を設立し、力強く支援いただいていることに厚く感謝を申し上げる次第である。

市の全庁的な取り組みとしては、共通認識を図るため、市職員全員を対象として4月24日、25日、28日の3日間、市長と病院の事務部長が「公立刈田綜合病院の現状と課

題について」と題して説明し、

【かかりつけの先生を持ってもらうこと。また、夜間診療はコンビニ医療ではなく、重症患者の診療等に】というお願いをしてきたところである。

これにより、市民と接する機会の多い職員には市民からの問い合わせには的確に対応できるものと思っている。

また、現在、刈田病院では病院改革プランの策定に取り組んでいるため、職員をワーキンググループの委員として

〔答弁〕【市長】社会教育の原点は、家庭であると思っている。しかし現代社会は、核家族化、共働き、そして携帯電話、インターネットといった情報環境のもと、行き過ぎた暴力、残虐な表現など、子どもの人格形成に悪影響を及ぼすおそれが指摘されている。

特に、良好な人間関係をつくることができず、自分の居場所をネット環境だけに依存している若者がふえているのではないかと思っている。また、家庭においても、子

参加させている。

今後においては、新院長のもと医師の招聘にこれまで以上に努めてまいりたいと考えている。

県知事への医師の招聘を要望した件について、知事は6月9日の記者会見で、とり得る手段はすべてとっているとした上で、県の担当部署に刈田病院への医師配置を最優先するよう指示したと聞いている。

来ていると認識をしている。

家庭の日創設については親子の触れ合い、話し合い、あるいは読書などに費やせるような家族間で心の触れ合いを深める日を設けることを考える時期にきていると判断している。

